



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北のかなめ

vol. 20

2012.9.28



おおうちじゅく
大内宿 (福島県下郷町)

特集・広報紙の歩み

- ・防衛白書の説明
- ・日米交流事業 (ネブタ祭り in つがる)
- ・大湊音楽隊の活躍
- ・秋田射撃場新設
- ・新東北防衛局長から
- ・米陸軍車力通信所隊長交代式
- ・「調達部」、どういうところ!
- ・インフォメーション

がんばろう!東北



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行
宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
Tel 022-297-8208
ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>



施仙広報 第419号
(平成10年1月)



庁舎お別れ特集号
(昭和47年12月)



仙台防衛施設局開局式
(昭和37年11月)



仙調広報 創刊号
(昭和24年7月)

特別調達局仙台支局
(昭和22年12月)



特集

伝え続けて60余年

広報紙の歩み

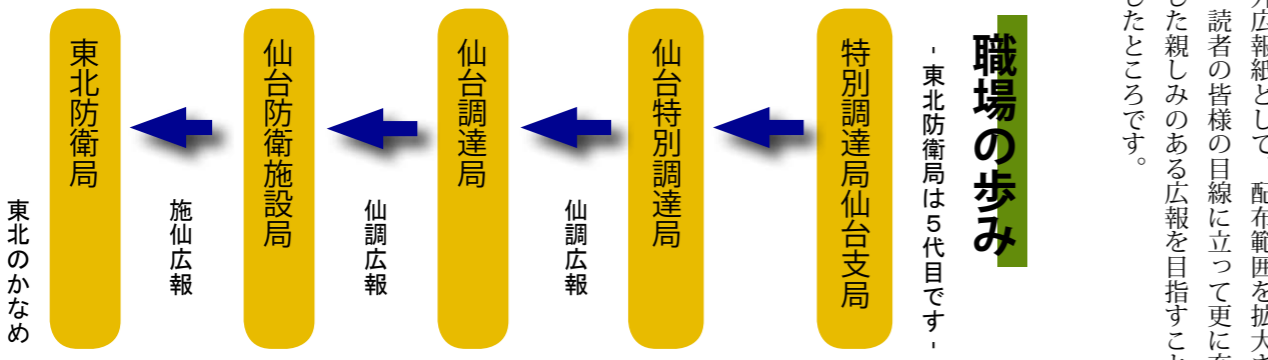
東北防衛局の広報紙「かなめ」は、東北6県の防衛に関する情報紙として、平成19年10月の創刊号から今回で通算20号の発行となりました。今回の20号の発行を契機として、^{まの}邁ること当局の前身である終戦直後の仙台特別調達局、仙台調達局そして仙台防衛施設局における広報紙の歩み(60余年)を振り返ることにしました。

現在の東北防衛局の前身となる組織について振り返りますと、昭和20年8月の終戦後間もない昭和22年12月、特別調達局仙台支局が最初となります。その後、昭和24年の組織改編により特別調達庁の仙台特別調達局に改称され、同年7月に広報紙「仙調広報」(創刊号)が発行されました。
「仙調広報」(創刊号)は、当時の時代背景を良く表し、今では珍しい、用紙はわら半紙に謄写版刷りでした。内容は部内広報が中心で、業務内容や組織改編の説明、人事発令、監督官事務所会議の様子などが掲載されています。
昭和28年になると、「仙調広報」(第30号)は、新春特別号と題して初めて赤色を採用し二色刷となり、その後、昭和32年には、これまでの「手書き」から「タイプ」による謄写版の作成に変わりました。当時の広報紙でも「今月号よりタイププリントした。」と、広報担当者の喜びを伝えていきます。
昭和37年11月、仙台調達局から仙台防衛施設局に組織改編となり、13年間続いた「仙調広報」は昭和37年10月発行の第150号を最終号として幕を閉じます。新組織となった仙台防衛施設局は、同年12月、新たな広報紙として「施仙広報」(創刊号)を発行します。
「施仙広報」は、昭和47年の庁舎移転の特集を組んだり、昭和54年の200号の折りには防衛施設庁長官からの寄稿文を掲載、平成10年の新年号には表紙をカラーにするなどして、その時代・時代の当局の話題の掲載や工

夫に努め、平成19年9月の防衛省統合による組織改編により仙台防衛施設局が無くなる直前の8月、臨時号(第485号)を最終号に幕を閉じます。
平成19年9月1日をもって、東北防衛局は、これまで仙台防衛施設局の果たしてきた役割を継承しつつ、装備施設本部郡山事務所を統合し、防衛行政全般の地方における拠点として生まれ変わりました。
新たにスタートした体制の下、東北6県の防衛に関する情報をこれまで部内広報を主として発行してきましたが、今後、東北防衛局の新たな広報紙「東北のかなめ」の発行に当たっては、
仙台局は、全国でも野球の強い局である。全国大会優勝回数、その際には周年のマラソン・朝野球の努力があると思う。野球ばかりでないことを広報200号が明らかにした。
広報・人材・野球、三要素になったが、この三つはいずれも密接な関係があるものと思う。
防衛施設庁長官からの寄稿



施仙広報 第200号
(昭和54年5月)



年表	年表
昭和20年8月	終戦
昭和22年12月	特別調達局仙台支局
昭和24年6月	仙台特別調達局に改称
昭和24年7月	仙台広報創刊号発行
昭和27年4月	仙台調達局に改称
昭和28年1月	仙調広報発行(第30号) 初めて号外(新春特別号)を発行。赤色を初めて使用。
昭和28年6月	仙調広報発行(第36号)2ページ構成から4ページ構成に増。(B4版程度画面)
昭和37年10月	仙調広報発行(第150号) 仙調広報として最終号。
昭和37年11月	仙台防衛施設局に改称。
昭和37年12月	施仙広報創刊号発行【名称変更】
昭和54年5月	施仙広報発行(第200号) 防衛施設庁長官から「施仙
平成7年1月	施仙広報発行(第395号) B4版(両面1枚)からA4版(両面最大3枚)に変更。
平成10年1月	施仙広報発行(第419号) 新年号の表紙を初めてカラーで採用。
平成19年8月	施仙広報発行(臨時号485号目)
平成19年9月	東北防衛局に改称
平成19年10月	東北のかなめ創刊号発行 新たにスタートした体制の下、これまでの部内広報紙から部外広報紙へ転換。
平成23年3月	東日本大震災発生
平成23年6月	東日本大震災を特集した特別版を発行(東北のかなめ第15号)

広報紙ができるまで

東北防衛局では、広報紙の企画・編集のため、職員10名程度で広報編集委員会を設置しています。広報編集委員会で、テーマを選定し、その後、企画会議～編集会議～校正会議を行い、職員の手作りで広報紙の原稿を作成し、印刷製本を業者に委託して完成品が納品されます。



広報編集委員会の様子

テーマの選定

広報編集委員会でテーマをホワイトボードに書き出して選定している状況。今回の特集は何にするかな？なかなかテーマが決まらない…。



企画・編集

広報編集委員会での企画・編集作業状況。赤ペンや青ペンがいっぱい！当初案はズタズタ！



校正作業

パソコンを使用して校正を行っている状況。字体や色使いにも苦労します。ここは何色がいいかな？



● テーマ決めが大変

毎号、新たな広報紙を企画するに当たって、そのテーマが非常に重要となります。

広報編集委員会では、防衛情報をより分かりやすく親しみのある情報として提供するため、毎号、テーマやコンセプトの検討に一番、時間を費やし、四苦八苦することになります。

● 写真の苦労

写真は、表紙を飾ることは当然ながら、各種業務や人物の紹介、そして部隊等での広報活動の状況をお伝えする上で、非常に重要なツールです。

この写真の撮影に当たっては、その時の天候や、夜間の撮影など、一通りのカメラ撮影技術の理解が求められます。



取材の様子

● 反響と喜び

広報紙を発行した後、部外者から「図書館で見ましたが、とてもすばらしいので一部いただけないでしょうか」などの反響があります。

また、東日本大震災における対応を特集した号については、各種説明会や研修等の際の資料として活用され、今でも増刷を重ねています。

このように広報紙の反響を実感する度、企画・編集等で苦労した広報編集委員会各委員としても喜びを感じています。



第9号



第10号



第11号



第12号



第13号



第14号



第15号



第16号



第17号



第18号



第19号

● 創刊号の秘話



創刊号 (平成19年10月)

創刊号の表紙については、平成19年9月、「東北防衛局」として新たにスタートするに相応しい写真が求められ、いろいろと検討等した結果、奥州の要として経済、文化の礎を築いた伊達政宗像と決まりました。表紙に採用となった写真は、太陽が沈みがけの夕焼けを背景にするため、3時間、待機して撮影したものです。

● 表紙を飾った写真

「東北のかなめ」の表紙の写真は、創刊号から第8号までは東北各地の風景等で飾っていましたが、その後、防衛に係る写真で飾り、第13号からは、発行当時におけるトピックス的な写真を使用して、読者の皆様により親しみやすくなるように工夫しています。

● 「かなめ」の由来

「かなめ」は「要石」の由来由来しています。「要石」とは、災いを防ぐためとして神社など敷地内に置かれた大石。地震を鎮めるとされる石。物事を中心となる重要な場所や人のことです。東北の地にあって「防衛の要」の役割を担うという気持ちを表しています。

「東北のかなめ」の発行

平成19年9月、防衛行政全般の地方における拠点として新たにスタートした東北防衛局の業務をご案内するとともに、東北6県の防衛に関する情報をお伝えするため、同年10月の創刊号の発行以来、今回で20号目の発行となりました。

地方協力確保事務

東北防衛局は、防衛政策等に対する国民のより幅広い層への理解増進等を図るため、地方協力確保事務として、防衛白書の説明、日米交流事業、艦艇広報、防衛セミナーなどを行っています。



吉村山形県知事への説明状況

防衛白書の説明

・平成24年版 日本の防衛

防衛白書は、わが国の防衛政策に対する内外の理解を得るために、昭和45年に第1回目、昭和51年に第2回目を刊行以降、毎年刊行しているもので、今年で38回目になります。

東北防衛局では、今年7月に刊行した平成24年版防衛白書について、自衛隊地方協力本部等の協力を得ながら、東北6県の各県知事を始め、東北各県の地方公共団体等に対して説明を行っています。



三浦宮城県副県知事への説明状況

平成24年版防衛白書



平成24年版防衛白書は、第I部「わが国を取り巻く安全保障環境」、第II部「わが国の防衛政策の基本と動的防衛力」及び第III部「わが国の防衛に関する諸施策」の3部構成となっております。

今回の白書では、動的防衛力の構築に向けた動きや次期戦闘機の整備、北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射への対応や日米の動的防衛協力の推進など、防衛省・自衛隊をめぐる多くの重要な事象を、図表・写真・コラムを活用し、できるだけわかりやすく紹介しております。

詳しくは、防衛省のホームページ(<http://www.pom.go.jp/>)に掲載されており、ご覧ください。

日米交流事業

・ネプタ祭り in つがる



△ 山車を引く米軍人等

祭への参加はほとんど初めての体験となることから、事前の練習会で地元の人達から太鼓のたたき方の手ほどきを受けるなど、本番に向けた準備が和気あいあいと進められ、いざ本番では日本文化にすっかり溶け込んだ米軍人等の姿に沿道の見学者から多くの喝采が送られていました。

東北防衛局は、今回の日米交流事業の成功を契機として、今後、開催地や日米交流事業の内容について更に幅を広げていきたいと考えています。

艦艇広報に参加

平成24年7月22日、護衛艦「きりしま」と「さざなみ」が仙台港に寄港。一般公開において東北防衛局は、国際貢献パンフレット(南スーダンPKO)を配布するなど政策広報活動を行いました。



仙台港(宮城県仙台市)

防衛セミナー開催

平成24年9月2日、東北防衛局は岩手県盛岡市において、第18回目となる防衛セミナーを開催しました。

今回の防衛セミナーは、「東日本大震災〜あの時から共に前へ〜」をテーマに、第1部では、陸上自衛隊第9師団第9特科連隊第3大隊長の宮川賀寿夫2等陸佐が東日本大震災での自衛隊の活動状況などをスライドと動画で説明し、引き続き、元岩手県防災危機管理監の越野修三氏(自衛隊OB)が東日本大震災での津波についての教訓や課題をスライドで説明しました。

第2部では、航空自衛隊三沢基地に所在する航空自衛隊北部航空音楽隊が、「あの時の心をいやした音楽」と題した音楽演奏を行いました。



△ 音楽演奏

平成24年7月27日、青森県つがる市が開催した「つがる市ネプタまつり」に、米陸軍車力通信所に勤務する米軍人等が参加し、地元の町内会の住民等との交流が行われました。

今回の「つがる市ネプタまつり」への米軍人等の参加及び交流は、つがる市千代町町内会の協力を得て、東北防衛局が日米交流事業「ネプタ祭りinつがる」として企画したものです。

車力通信所の米軍人等にとってこの



△ 太鼓をたたく米軍人





陸上自衛隊秋田射撃場が新設され、平成24年7月1日から運用を開始しました。

秋田射撃場新設

陸上自衛隊秋田射撃場は、秋田県山本郡三種町に所在し、平成16年度から平成18年度にかけて、秋田駐屯地第357施設中隊をはじめとする東北方面隊施設部隊隊員が主体となり、延べ約2万名をもって造成工事を実施し、その後、東北防衛局による管理棟等の建設工事が実施され、平成24年3月に全ての工事が完成。7月1日から本格的な運用を開始しました。

秋田射撃場の新設により、秋田駐屯地所属各部隊は、新規に導入された「小火器射撃評価システム」を最大限に活用し、これまで以上に効果的かつ効率的な各種射撃訓練を積み重ねて隊員の練度向上を図っていくこととしています。



訓練使用装備品



△ 89式 5.56mm小銃



△ 5.56mm機関銃 MINIMI



三種町

秋田県



市民とのふれあいコンサート (青森県むつ市)



△ 小学校での音楽鑑賞教室 (青森県むつ市)

海上自衛隊大湊音楽隊は、昭和31年に青森県むつ市に所在する海上自衛隊大湊地方隊に10名の隊員で発足し、昭和51年に大湊地方総監直轄の部隊として新編されました。

青森県むつ市を拠点に、北海道全域と青森、秋田及び岩手の北東北3県で

幅広い演奏活動を行っています。

今上天皇即位の礼、皇太子殿下御成婚パレード、オリンピック等の国際的国行事にも数多く参加しているほか、海上自衛隊が実施している練習艦隊の遠洋航海には、毎年隊員を派出しており、今までの訪問国は約70カ国を数え、国際親善にも貢献しています。



△ 分奏室 (練習を行う部屋)

部隊紹介

東北の自衛隊

大湊音楽隊の活躍



職場紹介

「調達部」、どういうところ!

私達の東北防衛局の職場を紹介するコーナーです。
当局は、総務部、企画部、そして調達部の三部があります。
今号では、その一つ「調達部」について、分かりやすく業務の概要を紹介します。

- **調達部**は、東北6県に所在する自衛隊及び在日米軍の防衛施設建設工事に関する業務を担当しています。
- **防衛施設**には、自衛隊の庁舎・宿舎の建物、飛行場・栈橋等の土木工事として通信施設等、また、在日米軍の整備工事や倉庫等があり、これらの建設工事を担当しています。
- **建設工事**を円滑に進めるため、防衛の任務に従事する使用者（自衛隊や在日米軍）との間で、安全面及び運用面に関する綿密な調整が非常に重要となっています。



△ 庁舎



△ 宿舎



△ 通信施設



△ 担当者との打ち合わせ

東日本大震災で被災した防衛施設の復旧

平成23年3月11日の東日本大震災により自衛隊施設も甚大な被害を受けました。
このため、昨年度から被災施設の復旧工事、今後の震災等に備えた機能強化の工事を本格的に実施しているところです。
また、福島第一原発事故由来の放射能物質により汚染された自衛隊施設内の除染工事についても、環境省からの支出委任を受けて実施しています。

— 調達計画課の職場紹介 —



調達計画課 小山内 良隆

調達計画課は、調達部内の総合調整や他部との調整、当局の発注する建設工事の予算の調整や使用者のニーズの調整、発注計画の作成、工事に係る地元調整など幅広い仕事を行っております。

課長、陸、海、空自衛官の総合調整官及び職員15名で一致団結し、自衛隊及び在日米軍施設の建設工事が円滑に進むよう工事に係る調整にあたっています。

新東北防衛局長から

中村 吉利 (なかむら よしとし)

主な経歴

- 昭和60年4月 防衛庁入庁
- 平成19年12月 大臣官房広報課長
- 平成21年8月 大臣官房米軍再編調整官
- 平成23年8月 地方協力局地方協力企画課長
- 平成24年8月 現職



この度、東北防衛局長を拝命いたしました中村でございます。まずもって、東日本大震災で被災された方々に心からのお見舞いを申し上げるとともに、地域の復旧、復興が一日でも早く達成されることを祈念いたします。

さて、今回は、私にとって初めての東北地方での勤務となります。このため、8月1日の着任以降、休日など時間のあるときには、できるだけ自分の足で、地域を見て回るよう努めてきました。東京よりは幾分低いとはいえ、記録的な暑さはやはり身に堪えましたが、他とは違う緑と時折わたる風の心地良さを感じました。そして、東北地方の風土、文化、味覚、人のすばらしさの一端に触れることができ、この地での勤務への期待をふくらませたものです。

一方で、未曾有の震災に傷ついた地の状況を見るにつけ、自らも微力を尽くさなければならないとの思いを新たにしています。

被害は自衛隊施設にも及んでいますが、その一日も早い復旧は私たち東北防衛局の使命の一つです。万が

一の場合に、施設が十分でないために自衛隊がその能力を発揮できない、などといった事態は、あってはならないことです。また、私たちには、東北地方におきまた、私たちには、東北地方における防衛行政の拠点として、自衛隊と在日米軍の施設が所在し彼らが活動することに対する、地域の理解と協力を確保するという任務が課されています。「地域の理解と協力」は、自衛隊等の能力発揮の前提である防衛施設の安定的使用という面から、防衛力の重要な要素の一つです。この意味で、私たちの任務には重いものがあります。

幸い、東北地方における自衛隊等に対する理解は大変深いものがあると感じています。これは、地域の方々から自衛隊等の活動に期待する一方で、災害救援など、地域の期待に応える活動を彼らが実施してきたことで、信頼関係が育まれたからこそと思います。

私としては、この状況に安住することなく、信頼関係が様々な面でさらに深まり、自衛隊等に対する地域の理解と協力が盤石なものとなるよう、全力で業務に当たる所存です。

米陸軍車力通信所隊長交代式

平成24年6月19日、青森県つがる市に所在する航空自衛隊車力分屯基地において、ミサイル防衛用早期警戒レーダー「Xバンド・レーダー」を管理している米陸軍車力通信所の指揮官交代式が行われ、マシュー・イングリシ少佐の後任にトーマス・ストックトン大尉が新隊長に着任しました。

新隊長に就任したストックトン大尉は「ミサイル防衛の情報を日本の各機関と共有し、北朝鮮をはじめとする弾道ミサイルの脅威に対処していきたい」と抱負を語りました。



△ 右端がストックトン大尉

- INFORMATION -

三沢基地航空祭 ～希望の空へ、夢をのせて！～



平成24年9月9日、青森県三沢市に所在する航空自衛隊三沢基地において、三沢基地航空祭が開催されました。

今年の航空祭のテーマは「希望の空へ 夢をのせて！」と題して、三沢基地に所属する日米の各種航空機の展示飛行をはじめ、航空機や主要装備品の地上展示、訓練展示が行われ、約9万人が詰めかけ、豪快な空中ショーに酔いしれていました。



講師派遣 ～防衛講義を東北各地にお届けします～

東北防衛局では、日本の防衛政策や自衛隊の災害派遣など各種防衛行政について、講師を派遣しております。

東北管内の自治体研修会や高校・大学などで講話を聞きたいとのご要望がございましたらご相談ください。



△ 大学での講義



東北の自衛隊広報行事

自衛隊（東北管内）が今後予定している広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

10月	開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
陸	10月14日(日)	大和駐屯地創立56周年記念行事	大和駐屯地	大和駐屯地広報班 022-345-2191(201)
陸	10月14日(日)	福島駐屯地創立59周年記念式典	福島駐屯地	福島駐屯地広報室 024-593-1212(204)
陸	10月20日(土)	史跡の里ふれあいコンサート	仙北ふれあい文化センター	秋田地方協力本部 018-823-5404
11月	11月17日(土)	第6師団創立50周年記念師団音楽祭	山形県県民会館	第6師団司令部総務課広報班 0237-48-1151(5217)
12月	12月13日(木)	秋田自衛隊音楽祭	秋田市文化会館	秋田駐屯地広報室 018-845-0125(207)

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。

編集後記

東北防衛局の広報紙「東北のかなめ」は、今号で早20号を数え、仙台特別調達局時代から通算505号となりました。

広報編集委員は、毎号、掲載記事の選定や、企画・校正などに四苦八苦しつつも、何とか発行にこぎつけています。

平成19年に内部広報から外部広報に変更し、読者の皆様の目線に沿ったより親しみのある「広報紙」に育てて参りたいと思い、広報編集委員は知恵を絞って頑張って参ります。

ご意見・ご感想などありましたら、是非お聞かせ下さい。

表紙の写真は、福島県下郷町に所在する「大内宿」です。南会津の山中にあり、全長約450mの往還の両側に、民宿や土産物屋、蕎麦屋など茅葺きの民家が多数建ち並んでいます。